



センターだより「みち」も今回で今年度最終号となりました。令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の位置づけが、これまでの「新型インフルエンザ等感染症（いわゆる2類相当）」から、昨年5月より「5類感染症」となり、大きく変わりました。とはいえ、すぐに日常生活が元に戻ったわけではなく、水面下では引き続き新型コロナ感染がインフルエンザと並行して蔓延している状況です。健康的な生活が何よりも大切であることを感じさせる一年でした。

今年度一年間、教育研修センター及び教育支援センターの事業をご活用いただきありがとうございました。今回は庄司康生指導主事が、須賀川市が取り組んでいる協同的な学びのコラムの連載をまとめました。次年度もセンターの積極的な活用をお願いいたします。



「第11回 学びの共同体国際会議」から 《コラム No.08》

今年度最後のコラムです。これまで子どもに学びを保障する学校や教師のミッションについて、聴くことについて等々書いてきました。今回は、来年度に向けて少し広い視野で書いてみましょう。

今月はじめ、学びの共同体国際会議がありました。佐藤学先生、秋田喜代美先生をはじめとする各国の研究者の基調講演に感銘を受け、また全体会報告者からは多くを学ぶことができました。

秋田先生は、先月第3回授業づくり研修会で三小にいらしてくださいましたが、基調講演で「聴く」ことの大切さを強調され、また「スローラーナー（ゆっくり学ぶ子）」の学びがクラスの学びのつながりの鍵になることをお話しされました。全体会では、来年度学校アドバイザーとして本市にいらしてくださいる森田先生が一人の小学校教師の歩みと成長をていねいにお話しされ、深い感銘とともに本市の教師の歩みについても示唆を与えてくれるお話として聞くことができました。

全体討議の中で「学校づくり」について佐藤先生はこんなお話もされました。当初“Bottom Up”を中心に進めてきたが、学校の状況は微妙にして複雑で特に校長先生の存在が大きいことがあり、“Bottom Up”と“Top Down”がいかにつながるか、両者の統合が重要であるとお話しされました。どの国・地域もこの問題は微妙で複雑ですが、佐藤先生を受けてシンガポール国立教育研究所 Christine Lee 先生がシンガポールは小さな国ですべての学校がネットワークでつながっていて、国全体で学校が子どもたちの学びに向けて組織的に動くことが可能となるとお話しされました。

筆者はこれまで須賀川市以外にも市や町として協同学習に取り組む自治体とその学校に関わってきました。それぞれ状況は異なりますが、もちろんそれは簡単なことではありませんでした。須賀川市は佐藤先生、秋田先生に来ていただく授業づくり研修会も含めて、校長先生(管理職)、教務主任、学校教育指導委員、小中一貫等々組織的につながって動いている面があります。計画指導訪問に学校教育指導委員が同行することにつながりをつくっていると思います。隣接するK市のように大きくはなく、とって小さくもない本市にとってシンガポールのLee先生の言葉は示唆深いものがあると思いました。

Lee先生は基調講演の中で「聴く(Listening)」ことの重要性と学びとの関連を強調してもしました。昨年度の国際会議における授業公開校だった埼玉県羽生市立井泉小学校が、このコラムでも紹介している古屋さんの「話の聴き方」7項目をもとにして深くすばらしい実践をしていることを今年もお話しされました。4月からのコラムは、また「聴く」ことの続き、そう、古屋先生が書いている、子どもたちが自分自身のことばを持つことは「聴く」ことから始まる、ということからまた始めていきたいと思います。よろしくお祈りします。みなさま、今年度一年間おつかれさまでした。ありがとうございました。

各学校等におかれましては、今年度も教育研修センター及び教育支援センターを活用していただきありがとうございました。センターの職員一人一人が今年度を振り返り、「ひとこと」をお届けします。

自由気ままに動き回る子どもたちの対応に悩みながらもクラスをしっかりとまとめ上げた若い先生。学ぶ楽しさを根気よく子どもたちに語り続け、子どもたちとともに教師として学んでいる中堅に差し加かろうとしている先生。小規模校同士の先生が二人で単元構想を練り、学校を越えて子どもたちをオンラインでつなぎ、学びを広げようと頑張るベテラン教師。多くの頑張る先生方と一緒に学ぶことができました。ありがとうございました。私たちは子どもたちがいるからこそ「教師」として成長していけるのです。(添田)



【同じひと言でも】

「何やってるの!」と、同じように注意したのに、その言葉が子どもの胸に響く場合と、全くそうでない場合があります。(「……」)その後続く言葉が、実際に声に出しては言わなけれど、子どもは感じている!そんなふうに言われたことがあります。「だからあなたはダメなのよ」の心の声が聞こえた子どもはどちらでしょう?音量や口調などで伝わらない場合があることにも配慮しなければいけませんね。(本多)



今年度も学校訪問、ジャンプアップ研修、教科等教育研修を通して多くの先生方の授業を参観させていただきました。私自身も大きな学びの機会となりました。ありがとうございました。児童生徒の学びについて、考えながら授業を行っている先生が増えてきています。生徒の聞き合う姿、学び合う姿を大切にしながら授業することを継続してほしいと思います。今後も、さまざまな研修を通して先生方一人一人の授業力向上の支援をさせていただきたいと考えています。よろしくお願いします。(春山)



「寄り添う姿」

今年も学校支援、ジャンプアップ研修等では大変お世話になりました。先生方の児童生徒に寄り添いながら日々過ごしている姿を聞くにつけ、温かい気持ちになります。先日は集団が苦手な廊下に出ることも難しかった児童が担任と一緒に校内イベントに参加することができたという話を耳にしました。担任は時間をかけて児童との信頼関係を作り、児童自らの判断でイベントに参加できたことを喜んでいました。嬉しい話に心穏やかになりました。今年一年、ありがとうございました。(七海)



今年度、ジャンプアップ研修やセミナー研修、教科教育等で大変お世話になりました。少しでも子ども達のためにいい授業をしようと熱意をもって研修する先生方に頭が下がる思いでした。これからも先生方の熱意に少しでも応えられるように、研修の充実を図っていきたく思います。研修は、一人で進めると困難にぶつかることがあります。ぜひ、授業や学級経営、生徒指導の話ができる同僚等をつくってほしいと願っています。今年一年、ありがとうございました。(安田)



今年度新しく設置された教育支援センターで、主に就学相談や教育相談を担当しました。令和6年2月29日現在の相談件数は、就学前が170件、小学校が125件、中学校が35件でした(何れも延べ件数)。保護者の方や先生方の困り感を丁寧に聴いていくと、たくさんの気づきや学びがあります。一人で悩まないで、ぜひ教育支援センターを引き続きご利用ください。誰一人として取り残さない須賀川の教育の充実のために今後ともよろしくお願いいたします。(芳賀)



「No Child Alone!」 市内全部の学校を訪問させていただき、子どもたちと先生方・職員のみなさまと出会えた幸せな1年でした。須賀川の子どもたちが誰も「一人だけ」になることなく、学び合う教室・学校をみんなであつくりたいと願っています。大学を卒業しても大学という「学校」にずっといたので、須賀川で初めて社会人になった気分のショウジ(庄司)です。證誠寺ではないのですが、よくみんなが私の横で「ショ、ショ、ショーージ」と歌います。(庄司)



「すこやか教室の様子から」

今年度「すこやか教室」に通級した児童生徒数は、4月が1日平均5名程度でしたが、10月には約10名となり、2月には約15名となっています。多い日は20名を超える日もありました。さらに今までは主に中学生でしたが、最近は小学生の通級者が増えています。子ども達が少しでも安心できるような居場所になるように指導員3名と協力していきたいと思っています。先生方も困ったときは遠慮なくご相談ください。(安田)